

## 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和4年度分)

## &lt;県の評価等&gt;

施設所管部名 : 観光部 観光総務課

## 1 指定管理者の概要等

|                 |  |
|-----------------|--|
| 施設の名称及び所在       | 三重県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)   |
| 指定管理者の名称等       | 株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保 (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)   |
| 指定の期間           | 令和3年4月1日～令和8年3月31日   |
| 指定管理者が行う管理業務の内容 | 1 サンアリーナの事業の実施に関する業務<br>2 サンアリーナの施設等の利用の許可等に関する業務<br>3 サンアリーナの利用料金の收受等に関する業務<br>4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務<br>5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務 |

## 2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

| 評価の項目        | 指定管理者の自己評価 |    | 県の評価 |    | コメント  |
|--------------|------------|----|------|----|---|
|              | R4         | R3 | R4   | R3 |   |
| 1 管理業務の実施状況  | A          | A  |      |    | 開設から28年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備投資により施設の利用環境の改善を図るほか、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するなど、適切な施設管理に努めている。   |
| 2 施設の利用状況    | B          | B  |      |    | 新型コロナウイルス感染症の影響で、総利用人数の項目では目標値を下回ったが、感染防止対策を徹底した上で、集客が大きいコンサートを年間で2件誘致するなど、集客の回復に向けて着実に取り組んでいる。<br>今後もサンアリーナを安全・安心に利用いただくため管理を徹底するとともに、コロナ禍後の更なる利用拡大に向けて、魅力的な自主事業等の実施など、施設利用の増加に向けた取組が求められる。  |
| 3 成果目標及びその実績 | C          | C  |      |    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、6つのうち4つの項目で成果目標を達成することができなかった。<br>令和5年5月に、新型コロナの感染症法の位置づけが5類感染症に移行されたことを受け、コロナ禍前のにぎわいを取り戻しつつあるが、引き続き感染防止対策には留意しながら、より多くの利用に向けて施設のPR等に努めるなど、成果目標を達成できるよう、一層の創意工夫ある取組が求められる。 |

※「評価の項目」の県の評価 :

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。  
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。  
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

|        |  |
|--------|--|
| 総括的な評価 | <p>○開設から28年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備投資により施設の利用環境の改善を図るほか、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底など、適切な施設管理に努めている。</p> <p>○コロナ禍の中、大型イベントの開催には慎重さが求められたが、令和4年度は2件のコンサートを誘致し、感染対策を徹底して実施することで大きな集客につなげるとともに、自主事業による中小規模のイベントを実施するなど、コロナ禍後の更なる集客に向けて積極的かつ適切に取組を進めた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、6つのうち4つの項目で目標値を下回ったものの、感染防止対策を徹底した上で各種イベントを実施することで、メインアリーナ、サブアリーナ、会議室等の平均稼働率は令和3年度実績を上回り、令和3年度比で利用人数は約184%、料金収入は約135%に増加させることができた。</p> <p>○今後は成果目標を達成できるよう、コンサートのほか、フットサルリーグやバスケットボールBリーグなどのプロスポーツの誘致を進めるとともに、魅力的な自主事業等の着実な実施により、コロナ禍後の利用促進を図ることが求められる。</p> |
|--------|--|

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務

■新型コロナウイルス感染症の影響が出始めてから3年目になり、スポーツ大会、イベント等の開催が、これまでの全て中止又は延期から、基本的対処方針やガイドラインに沿った感染対策を行った上で実施する方針に変化してきた。そのため、各主催者との事前打合せを綿密に行い、サンアリーナでのスポーツ大会やイベント等は、結果として感染拡大を誘引することなく終えることができた。

■広報及び利用促進活動についても、独自の広報誌である「サンアリーナかわら版」をはじめ、伊勢市・鳥羽市・度会町・玉城町で約65,000部配布されているフリーペーパー「イセラ」にボルダリングDAYの開催案内を中心に掲載し、「広報いせ」にもイベント告知のお知らせを5回掲載した。施設ホームページも年間61回の更新を行い積極的に情報発信を行った。直接誘致の取組として、日本サッカー協会や三重県フットサル連盟に対し、サンアリーナ開催の誘致について協議を行った。

■自主事業については、30件、延べ124回のイベントを開催し、5,395名の来館者をお迎えした。新型コロナウイルス第7波・第8波と感染状況が刻一刻と変化中、その状況を注視しながら中小規模のイベントを実施し、開催時は感染予防対策を徹底した。イベント参加後の感染者は確認されていない。

■地域活性化活動においても、令和4年度も大規模なイベントの開催は難しく、8年にわたりスポーツツーリズムの観点から継続してきた「伊勢の森トレイルランニングレース」の開催を、参加者が全国に及ぶこと、運営に携わるボランティアスタッフの確保が困難であることなどから3年連続中止したこともあり、地域と繋がるのが難しくなった。そんな中でも3年振りに2回のコンサートが開催されたことを契機に関連の地域企業や団体、周辺企業とも連携しながら、地域におけるサンアリーナの役割を果たすことができた。

■照明設備による電力消費量の一層の削減を図るため、1階サブアリーナ前男女トイレ及びバリアフリートイレ、1階サブアリーナ前男女更衣室、授乳室等の照明設備について人感センサー化を実施した。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

■令和4年度も職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合等に対応した。新型コロナウイルス感染症対策にも積極的に取り組んだ。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先作業員と協力し適正に管理を実施した。

■環境整備事業は、下記3件の事業について例年どおり計画的に実施し、令和4年度も施設の安全性・利便性の維持向上を図った。

- ・第1回環境整備事業 県営サンアリーナ 非常用発電機排気消音器更新
- ・第2回環境整備事業 県営サンアリーナ A駐車場ライン引き直し及び増床
- ・第3回環境整備事業 県営サンアリーナ 冷水機入替工事

③ 県施策への配慮に関する業務

■ 思いやり駐車場の増設

県が推進するユニバーサルデザインのまちづくりへの取組として、A駐車場のライン引き直し及び増床工事に併せて、以前からあるA駐車場内の思いやり駐車場を充実した。駐車区画2.5m幅で4区画から、3.5m幅で5区画に増設し、全て車いすでのご利用が可能となった。

■ 近隣窃盗事件捜査への協力

伊勢市朝熊山麓公園駐車場2か所において発生した自動販売機窃盗事件において、伊勢警察署より監視カメラ映像の確認及びデータ提供依頼があったため、協力した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

■ 令和4年度、情報開示請求はなかった。

⑤その他の業務

■周辺交通・駐車場対応

コンサートが2年4か月ぶりに開催され、周辺交通・駐車場対応について心配されたが、10代～20代のファンが多いアーティストのコンサートということもあり、公共交通機関の利用も多く、地域住民に迷惑になるような事象もなく終了した。

■人材育成事業

人材育成事業として、下記講習等に職員が参加した。

- (1) 三重労働基準協会主催「衛生推進者養成講習」総務G1名(5月)
- (2) 陸災防三重県支部主催「フォークリフト運転技能講習」サービスG1名(6月)
- (3) 日本スポーツ施設協会主催「上級スポーツ施設管理士資格更新講習」資格取得者4名(6月)
- (4) 伊勢税務署主催「インボイス制度説明会」総務G1名(6月)
- (5) みえのスポーツフォーラム実行委員会主催「みえのスポーツフォーラム」サービスG2名(9月)
- (6) 三重県食品衛生協会主催「食品衛生責任者新規養成講習会」サービスG1名(9月)
- (7) 伊勢商工会議所主催「電子帳簿保存法改正の概要と対応ポイント」総務G1名(12月)
- (8) 伊勢商工会議所主催「ビジネスマナー研修講座」サービスG1名(3月)

(2)施設の利用状況

|         | 【平均稼働率】(4年度実績)(目標)(3年度実績) |       |       | 【利用人数】(4年度実績)(目標)(3年度実績) |          |          |         |
|---------|---------------------------|-------|-------|--------------------------|----------|----------|---------|
|         |                           |       |       |                          |          |          |         |
| メインアリーナ | 53.5%                     | 60.0% | 45.1% | アリーナ                     | 106,616人 | -        | 51,393人 |
| サブアリーナ  | 66.3%                     | 70.0% | 62.3% | 会議室等                     | 14,960人  | -        | 10,027人 |
| 会議室等    | 14.0%                     | 20.0% | 11.0% | トレーニング室                  | 5,209人   | -        | 5,384人  |
|         |                           |       |       | フィットネス室                  | 4,078人   | -        | 4,101人  |
|         |                           |       |       | 合計                       | 130,863人 | 300,000人 | 70,905人 |

2 利用料金の収入の実績

|             | 4年度実績           | 4年度目標           | 対目標比           | 3年度実績             | 対前年比          |
|-------------|-----------------|-----------------|----------------|-------------------|---------------|
| 利用料金収入      | 63,314,542円     | 65,318,000円     | 96.9%          | 46,877,286円       | 135.1%        |
| ※利用料金減免等の内訳 | 割引金額 3,225,436円 | 減免金額 1,573,285円 | 特別割引金額 69,158円 | 特別減免金額 2,953,800円 | 合計 7,821,679円 |

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

| 収入の部         |             |             | 支出の部     |             |             |
|--------------|-------------|-------------|----------|-------------|-------------|
|              | R4年度        | R3年度        |          | R4年度        | R3年度        |
| 指定管理料        | 210,437,000 | 214,235,000 | 人件費      | 67,863,500  | 64,821,919  |
| 利用料金収入       | 63,314,542  | 46,877,286  | 光熱水費     | 49,566,837  | 37,982,614  |
| 自主事業収入       | 7,538,600   | 4,128,437   | その他一般管理費 | 124,213,319 | 128,084,858 |
| 営業外収入        | 7,658,175   | 6,413,777   | 自主事業経費   | 10,513,070  | 5,613,940   |
|              |             |             | 消費税      | 9,567,771   | 9,189,021   |
| 合計 (a)       | 288,948,317 | 271,654,500 | 合計 (b)   | 261,724,497 | 245,692,352 |
| 収支差額 (a)-(b) | 27,223,820  | 25,962,148  |          |             |             |

※収支差額は法人税等税引前当期純損益額

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

|         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 利用料金減免額 | 7,821,679 | 4,679,221 |
|---------|-----------|-----------|

4 成果目標とその実績

| 【数値目標】       | 目標値      | 成果・実績    | 備考(参考数値)  |
|--------------|----------|----------|---|
| メインアリーナ平均稼働率 | 60.0%    | 53.5%    | 令和3年度 45.1% 令和2年度 34.2% 令和元年度 55.8%<br>平成30年度 69.0% 平成29年度 59.6% 平成28年度 65.9%<br>平成27年度 55.4% 平成26年度 51.4%  |
| サブアリーナ平均稼働率  | 70.0%    | 66.3%    | 令和3年度 62.3% 令和2年度 59.5% 令和元年度 69.7%<br>平成30年度 73.3% 平成29年度 70.6% 平成28年度 75.0%<br>平成27年度 67.1% 平成26年度 66.9%  |
| 会議室等平均稼働率    | 20.0%    | 14.0%    | 令和3年度 11.0% 令和2年度 8.5% 令和元年度 19.1%<br>平成30年度 17.1% 平成29年度 20.5% 平成28年度 29.0%<br>平成27年度 16.2% 平成26年度 14.7%   |
| 自主事業イベント件数   | 30件      | 30件      | ・スポット型27件/35回/年間(スポーツ健康振興事業、文化事業等)<br>・通年型3件/89回/年間(スポーツ教室、ダンススクール、<br>ボルダリングDAY)   |
| 全館年間利用件数     | 500件     | 510件     | 令和3年度 387件  |
| アリーナ利用人数     | —        | 106,616人 | 令和3年度 51,393人 令和2年度 31,155人 令和元年度 291,946人<br>平成30年度 221,732人 平成29年度 783,867人 平成28年度 196,636人<br>平成27年度 247,031人 平成26年度 192,273人  |
| 会議室等利用人数     | —        | 14,960人  | 令和3年度 10,027人 令和2年度 9,268人 令和元年度 21,466人<br>平成30年度 20,199人 平成29年度 45,534人 平成28年度 22,584人<br>平成27年度 20,180人 平成26年度 21,998人   |
| トレーニング室利用人数  | —        | 5,209人   | 令和3年度 5,384人 令和2年度 5,387人 令和元年度 9,321人<br>平成30年度 9,648人 平成29年度 7,266人 平成28年度 8,853人<br>平成27年度 15,667人 平成26年度 13,190人  |
| フィットネス室利用人数  | —        | 4,078人   | 令和3年度 4,101人 令和2年度 2,862人 令和元年度 3,417人<br>平成30年度 4,518人 平成29年度 4,201人 平成28年度 3,898人<br>平成27年度 3,891人 平成26年度 3,732人  |
| サンアリーナ利用人数合計 | 300,000人 | 130,863人 | 令和3年度 70,905人 令和2年度 48,672人 令和元年度 326,150人<br>平成30年度 256,097人 平成29年度 840,868人 平成28年度 231,971人<br>平成27年度 286,769人 平成26年度 231,193人  |
| 今後の取組方針      |          |          | <p>■新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針は廃止されたものの、新型コロナウイルスがなくなったわけではない。これまでの貸館業務におけるコロナ禍での大会・イベント等運営に関して、動線の確保や観客数の管理など蓄積してきたノウハウを活用し、主催者と密にコミュニケーションを取りながら感染対策等をサポートし、安全・安心に利用出来るサンアリーナをめざす。</p> <p>■来場者数をはじめ収益面でも重要視する大型コンサートやスポーツ系、エンターテイメント系イベント等の興行会社に対し、直接提案活動の取組をこれからも継続して行い、運営協力やチケット販売協力など、主催者にとっても開催メリットのある環境づくりを行いながら、積極的な誘致に取り組む。</p> <p>■自主事業においても、フットサルのFリーグやバスケットボールのBリーグの試合を開催し、国内トップレベルのプレーに触れることができる機会を創出することによって、地域における競技普及に寄与していく。新型コロナの影響により3年連続で中止としてきたが、2012年から8年間開催してきた「伊勢の森トレイルランニングレース」を4年振りに開催する。ボランティアスタッフをはじめ人的確保の問題など課題が山積しているが、工夫を凝らして安全・安心な大会運営を検討し、スポーツツーリズムによる地域の活性化、地域との連携につなげたい。</p> <p>■キャッシュレスの普及が進む現代において、アリーナショップでの利用者の利便性向上を目的として、電子決済システムの導入に取り組む。</p> <p>■世界規模でSDGsが浸透していく中、三重県の大型スポーツ施設の取組として、これまでも順次進めている照明のLED化をはじめ社用車のEV化なども検討し、三重県が進めるSDGsの実現に貢献する。</p> <p>■まもなく築30年を迎えるサンアリーナを管理するにあたり、日常管理業務の重要性を再認識し、サンアリーナの保全と利用者の快適性維持に努める。日常の監視、点検、整備を確実に実行し、不良箇所などの早期発見、早期修繕を実践することで、日常の貸館に支障をきたさないよう努める。</p> |

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

| 評価の項目        | 評価 |    | コメント  |
|--------------|----|----|---|
|              | R4 | R3 |   |
| 1 管理業務の実施状況  | A  | A  | <p>■職員により日常点検を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合や障害に関しても、迅速な対応にあたった。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先作業員と協力し適正に管理を実施した。</p> <p>■令和4年度も新型コロナウイルス感染症防止対策に取り組んだ。日常の点検で各箇所の手指消毒液の補充や、諸室利用後にはアルコール噴霧スプレーガンでの消毒を徹底して行った。自主事業開催時の新型コロナウイルス感染防止対策、熱中症予防対策として換気強化のため、大型扇風機3台を購入し活用した。</p> <p>■予防保全を徹底することが運用上の支障や、利用者の事故・怪我等の未然防止につながるという観点から、担当職員全員が高い意識をもって日常巡視に努めた。サブアリーナのボルダリングマットを連結しているマジックテープ部分が経年劣化により粘着力が弱くなり、危険なためマットカバーを更新した。</p> |
| 2 施設の利用状況    | B  | B  | <p>■令和3年度とは違い、様々なスポーツ大会やコンサートも開催され、徐々に賑わいが戻ってきた。平均稼働率では、メインアリーナ・サブアリーナ・その他会議室全ての施設で前年を上回った。</p> <p>■2回のコンサートが開催されたことをはじめ、お伊勢さんマラソンや全日本中学生ソフトテニス大会、伊勢志摩労働者福祉協議会の福祉フェスティバルなど大型のスポーツ大会やイベントも開催された。</p>   |
| 3 成果目標及びその実績 | C  | C  | <p>■令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きくあり、各スポーツ大会やイベントも以前の規模での開催は難しい状況のなか、平均稼働率については、前年比メインアリーナで118.6%、サブアリーナで106.4%、その他会議室で127.3%と増加した。利用人数についても、合計で前年比184.6%となったが、目標値の達成には至らなかった。</p> <p>■貸館件数は令和3年度の387件から令和4年度は510件と、目標の500件を上回った。自主事業実施件数も、新型コロナウイルス感染防止対策を工夫しながら実施し、30件の目標を達成した(令和3年度18件)。</p>  |

※評価の項目「1」の評価 :

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
- 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 当初の目標を達成している。
- 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価

■年度当初からバドミントンや体操、新体操競技の県高校総体が一部有観客にして実施された。他にも東海大学男女バレーボール春季大会や伊勢市内スポーツ少年団のスポ少フェスタも開催されるなど、低迷していた来館者数も徐々に回復してきた。

■6月、2年4か月ぶりにアリーナツアーコンサートが開催され、3日間で約21,000人の来館者数となった。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となって以降、久しぶりの開催であったため、来場者チェックなど感染防止の取組をはじめ、駐車場の問題等主催者と事前に綿密な協議をおこない、大きな問題もなく終えることができた。

■7月には、新型コロナウイルス感染症「第7波」による感染の急拡大により、三重県内でも連日多くの感染者数が発表された。そんな中でも各スポーツ団体主催者もこれまでの経験をもとに、直ぐに「中止」ではなく工夫を凝らして「実施」に向けて準備するようになり、施設側としても綿密に打ち合わせを行い、その一助となることができた。その流れで年末の「野口みずき杯2022中日お伊勢さんマラソン」に8,000人以上、3月には4年ぶりに「第34回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会」が開催され、全国から3,000人以上が来館された。年度後半の大会は有観客で開催され、コロナ禍以前の賑わいが戻ってきた。

■令和3年度に続き、多人数が参加の講習会や総会でのご利用があり、主催者側の新型コロナウイルス感染対策上、従前の開催場所より大きな会場での開催を希望する新たなニーズが生まれた。これらは令和5年度以降も予約が続いている。

■サブアリーナのボルダリング施設の活用では、令和3年度末に初級者用コースルートのリニューアルを行い、広報も積極的に実施した結果、5月のリニューアルイベントには過去最高の77名の参加者となった。3月には、設置当時にもお招きした四日市市出身のプロスポーツクライマー、渡部圭太さんを特別講師にお迎えして「ボルダリング設置5周年記念イベント」を実施した。

■自主事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年連続で「伊勢の森トレイルランニングレース」の中止、Bリーグ公式戦も未開催となったものの、目標の30件を達成し、実施した30件全てのイベントで感染防止対策を徹底し、一人の感染者も出さずことなく終えることができた。